

山運整第274号
令和5年11月17日

管内旅客自動車運送事業者 各位

山形運輸支局長
(公印省略)

バスの走行時における安全運行の徹底について

今年度、別紙のように、乗合バスの乗降口の扉（中扉）を開放したまま走行していることに当該バスの運転者が気付かず、扉を開放したままの状態で行方を継続した事案が全国で3件確認されております。

乗合バスの乗降口の扉が開放された状態で走行することは、旅客が道路上に転落する恐れがあるとともに、旅客に恐怖心を与えるものであり、輸送の安全を大きく損ねるもので大事故に直結しかねない事案です。

事業者からの各地方運輸局への報告内容によると、運転者が閉扉操作を行っていないこと、開扉走行防止装置が正常に作動していないこと等、運行管理・整備管理が不十分であることが確認されています。

同様な事案は過去にも発生していることから、再発防止のため、改めて下記について取組をお願いします。

記

- ①輸送の安全確保が最大の使命であることを再認識すること。
- ②運転者に対し、発車時の扉操作及び安全確認を確実に実施すること、並びに扉を閉じなければ発車できないことについて、指導徹底すること。
- ③扉及び扉開放防止装置が正常に作動するかどうか、その他当該装置の異常の有無について、日常点検等において確実に点検すること。

2023年11月2日現在

各地方運輸局へ報告があった扉を開放したまま走行した事案(令和5年度)

発生日	概要
6月18日	6月18日(日)午後4時30分ごろ、静岡県に営業所を置く乗合バスが、休憩時に開けていた中扉を閉め忘れ、回送区間を含む約24分間走行した。 この事案による負傷者はいない。
9月14日	9月14日(木)午後8時50分ごろ、愛知県に営業所を置く乗合バスが、停留所を出発して走行中、交差点において赤信号で停止するため減速したところ中扉が開放。運転者はこれに気付かず次の停留所までの約400mを走行し、この間、減速時に開放・加速時に閉じる状況が2回繰り返された。 この事案による負傷者はいない。
10月30日	10月30日(月)午前8時55分頃、千葉県に営業所を置く乗合バスが停留所を発車する際中扉を閉め忘れ、2つ先の停留所までの約1.5kmを走行した。 この事案による負傷者はいない。